

# 関門海峡ミュージアム魅力向上のための基本計画(案)概要

---

平成29年3月

福岡県

北九州市

## ■ | 施設の考え方

### <基本方針>

#### 雄大な海峡と港町の賑わいを体感する 日本唯一の海峡ミュージアム

九州と本州を隔てる関門海峡は、古来、我が国と世界を結ぶ交通の要衝として発展してきました。

我が国の歴史の大転換を決定づける数々の事件の舞台になるとともに、かつて日本で最多の船舶が出入りした門司港には、安全な航海を支え、港町の繁栄を育んできた人々の営々たるドラマがあります。

このミュージアムは、日本の歴史、文化、経済的繁栄を育んできた関門海峡について、体験しながら楽しく学ぶ日本唯一の海峡ミュージアムを目指します。

#### 門司港のランドマーク 水先案内を担う拠点ミュージアム

かつて日本一の海運拠点として繁栄した関門地域は、今では、西日本有数の観光地として国内外からたくさんの旅行者が訪れるようになりました。

本州と九州を結ぶ関門橋、激しい潮の流れの中を行き交う船、大正浪漫を今に伝える建造物といった大パノラマを一望できる関門海峡ミュージアムは、これからの観光プランを考え、楽しい非日常に思いをはせる最適なロケーションを有しています。

このミュージアムは、船をモチーフとしたデザインと関門海峡を臨む大眺望を活かし、門司港のランドマークとなり、関門地域の各所に旅行者を誘導する水先案内の役割を担います。

#### 市民の応援で 日々進化するミュージアム

国内外の旅行者が「行ってみたい」「また来たい」と思う施設となるためには、市民に愛され、親しまれ、応援される施設であることが重要です。

運営に多くの市民が参画し、また、活動拠点として日常的に利用いただくことで、ホスピタリティが高まり、新しいプログラムも生まれます。

このミュージアムは、市民とともに進化、成長し、地域活力の源泉となるミュージアムを目指します。

amusement + museum

ミュージアムから、**アミュージアム**へ。関門海峡ミュージアムは、『楽しい学び』があふれる施設に生まれ変わります。

ミュージアムから、アミュージアムへ。リニューアルのキーワードです。関門海峡の雄大さへと誘う『楽しい学び体験』が関門海峡への新たな視点を来館者にもたらしめます。何度も楽しめて、楽しむほど興味がわいてくる！リニューアルではそんな好循環を作り出して、施設とまちに賑わいをつくります。

### <リニューアルの方向性>

#### 1. デジタルテクノロジーを駆使した演出で海峡の魅力を引きだします

拡張現実など、先端のデジタルテクノロジーを用いた演出を行うことで、関門海峡の隠された魅力を浮き彫りにします。

#### 2. 忘れがたいストーリーで、リピート訪問を呼び込みます

関門海峡をより一層魅力的にみせるテーマやストーリーを展示に持たせることで、来館者に何度も訪れたいと思ってもらえるような施設づくりを目指します。

#### 3. 地域連携で、地元の人たちの集うミュージアムになります

地域との連携のもと、イベントや物販など様々なプログラムをミュージアムで開催、地元の人たちが何度も集い、楽しめるミュージアムを目指します。

### <集客の考え方>

#### 1. ファミリー層の集客力の強化

関門海峡ミュージアムの「楽しく学ぶ」というコンセプトを活かし、子育て世代を中心とする「ファミリー層」のさらなる集客を図ります。

#### 2. 門司港レトロ地区来訪者を中心とした広域観光客集客力の強化

門司港レトロ地区には200万人を超える多くの来訪者があります。関門海峡ミュージアムに国内の様々な地域から来訪者を呼び込むことで、ミュージアムの入場者増、ひいては門司港レトロ地区への来訪者の増加を目指します。

また、全国各地からの集客に加え、インバウンドの受け入れなど広域的な集客力の強化にも取り組みます。

<展示コンセプト>

# 「海峡ドラマシップ」の旅

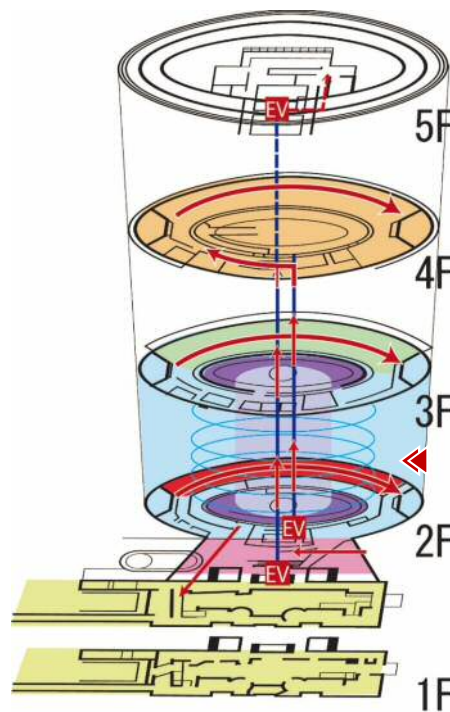
巨大客船をイメージして建築された関門海峡ミュージアム。関門海峡ミュージアムを時空を超えて航海する「海峡ドラマシップ」に見立て、来館者を現在、過去、未来の関門海峡への旅に誘います。

リニューアルでは、最新の映像技術を駆使し、あたかも現実の海峡ドラマの中に身を置いたような空間を演出するとともに、地域の皆さんとの温かい交流を楽しむことができる、体験型・参加型の施設を目指します。

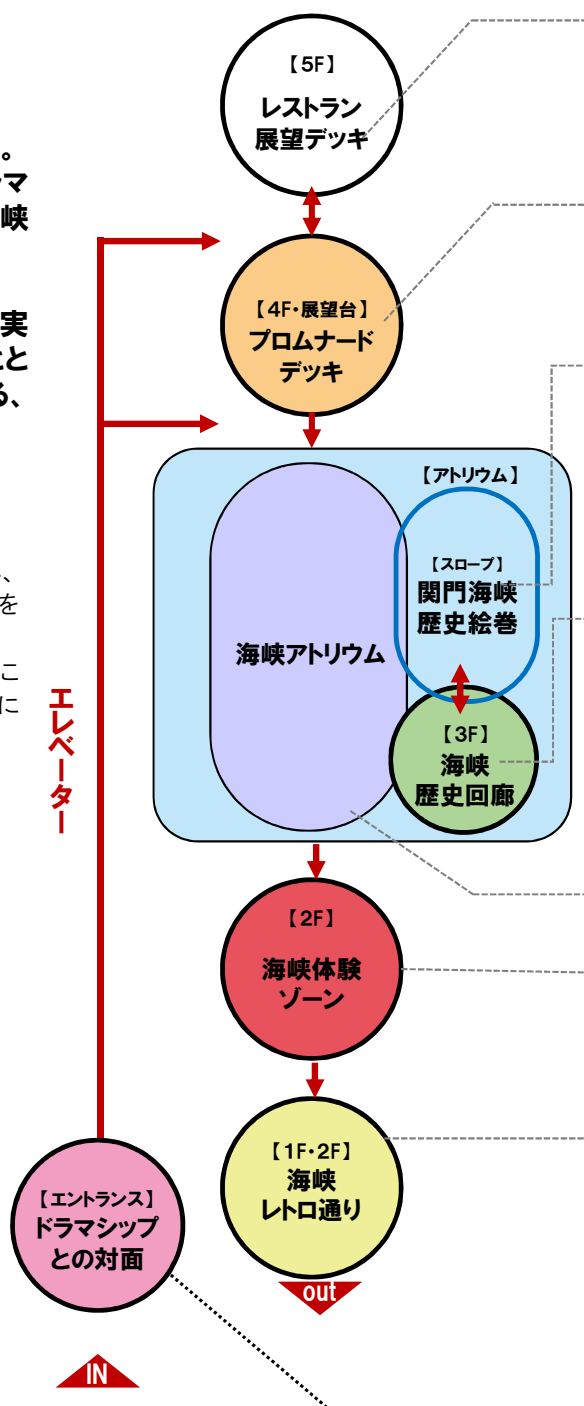
<展示の構成と動線計画>

「海峡ドラマシップ」の旅というコンセプトを受け、波止場から乗船し、関門海峡の歴史、文化、自然をあたかも船とともに旅するイメージを演出する展示構成に見直します。

そして、入館者がストーリーを感じながら、楽しく快適に館内を巡ることができるよう、現在の下(1階)から上への動線を上(4階)から下に見直します。



エレベーター



**関門海峡の雄大な眺めの中で、食を満喫**

最上階は、展望レストラン。地元産の新鮮な食材と、関門海峡の雄大な眺望を同時に楽しむことができます。

**絶景広がる待合室**

豪華客船の甲板(デッキ)をイメージした待合室にリニューアル。誰でも気軽に立ち寄れるラウンジとし、観光案内所、海峡を見下ろすカフェなどを併設します。雄大な関門海峡とレトロ地区を一望しながら、旅のプランを思い描き、各ゾーンへの興味をかき立てます。

**絵巻物で再現する海峡歴史**

アトリウムを取り巻く長いループ状のスロープ。動線をこれまでの上りから下りにすることで入館者が快適に移動できるようにします。アトリウムで実施されている映像鑑賞に加え、壁面に絵巻物をイメージしたイラストやプロジェクションマッピングにより、関門海峡の歴史ドラマを再現。現代から過去へ時代をさかのぼりながら、楽しく海峡の歴史を学びます。

**人形が語る海峡ドラマ**

歴史を下るスロープの途中に位置する展示室。海峡の歴史ドラマを国内外の著名作家が制作した人形により再現した既存の展示を、楽しく、わかりやすく見学できるようにリニューアルします。

**巨大映像に包まれ海峡を体感**

最新映像技術を駆使し、360度の多重スクリーンにより、空中、海中といった通常では経験できない位置から、現代、過去、未来の海峡ドラマを迫力のある映像で体感できる空間を創ります。

**海峡リアル体験**

関門海峡を航行する船の操船シミュレーション、世界の海峡を巡るオペレーションゲーム、関門海峡に生息する魚の釣り体験、海の安全を守る海峡の仕事体験など海峡を楽しく体験するゾーンを新たに整備します。

**大正浪漫あふれる門司港**

ドラマシップを降りれば、懐かしい昔の門司にタイムスリップ。既存の造作を活かしながら、よりリアルに大正浪漫の雰囲気味わえるよう作りこみを行います。例えば、大正時代のコスプレ体験、テナント出店や多目的ホールでの企画イベントといった体験・交流機能を充実します。これまでどおり、エントランスから直接入場できるゾーンとします。

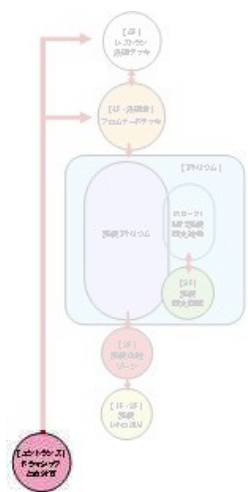
**豪華客船が接岸した波止場**

既存の船形の壁とボーディング・ブリッジ風の連絡通路を活用し、「ドラマシップ」が接岸した波止場にリニューアル。楽しい旅の始まりを予感させ、入館者のワクワク感をかき立てます。

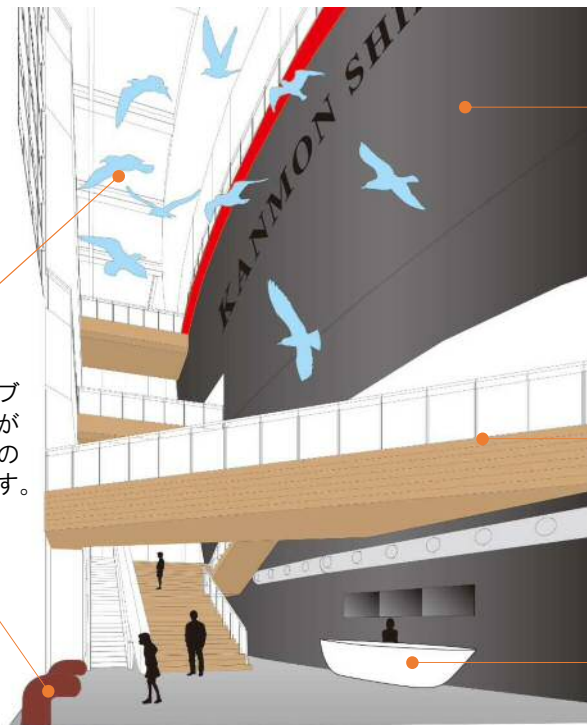
<1階 エントランス>

**エントランスはドラマシップが接岸した波止場  
来館者を別世界へと誘います**

エントランスは船型をイメージしたものとなっていますが、分かりにくい  
ため、グラフィックで船をはっきりイメージさせるとともに、連絡通路を  
ボーディング・ブリッジ風に演出します。  
ドラマチックに来館者を迎えるエントランスにイメージアップすることで、  
来館者にこれから始まる「海峡ドラマシップの旅」を強く意識させ、期  
待感を高め、各ゾーンへの入館を誘導します。



<リニューアルイメージ>



船をイメージ  
できる  
グラフィック

ボーディング・  
ブリッジ風に演  
出

受付：  
海に浮かぶ小船

カモメやビットオブ  
ジェで豪華客船が  
接岸した波止場の  
雰囲気をつくります。

<4階・展望台 プロムナードデッキ>

**4階は豪華客船のラウンジ 関門海峡の絶景を  
見下ろしながら、乗船へのキモチを高めます**

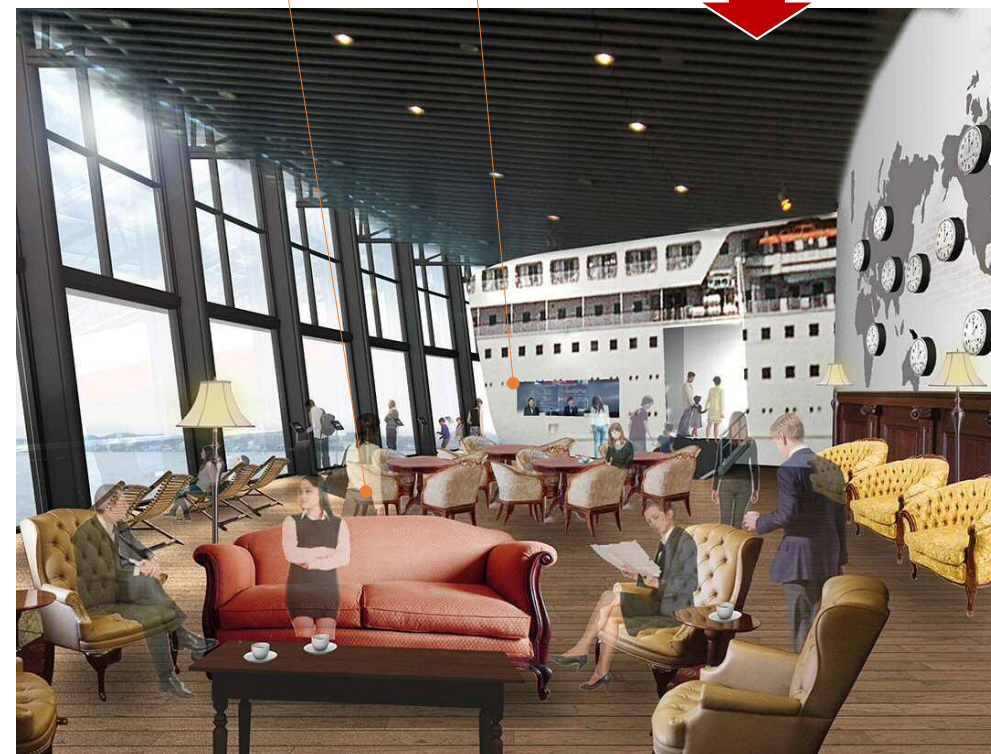
関門海峡の絶景が広がり、抜群の眺望を誇る4階スペースをラウンジ  
とし、海峡を見下ろすカフェ、観光案内所を併設します。ゆっくりとつ  
つろいだ雰囲気の中で、旅のプランを思い描き各ゾーンへの興味をかき  
立てます。



海峡を眺めるカ  
フェ等を配置

大正から昭和にかけて航  
行した豪華客船をイメージ  
した内装をほどこします。

<リニューアルイメージ>



<海峡アトリウム>

**アトリウムに入れば、そこは潮流空間 360度のスクリーンに、時空を超えた海峡のドラマが甦る**

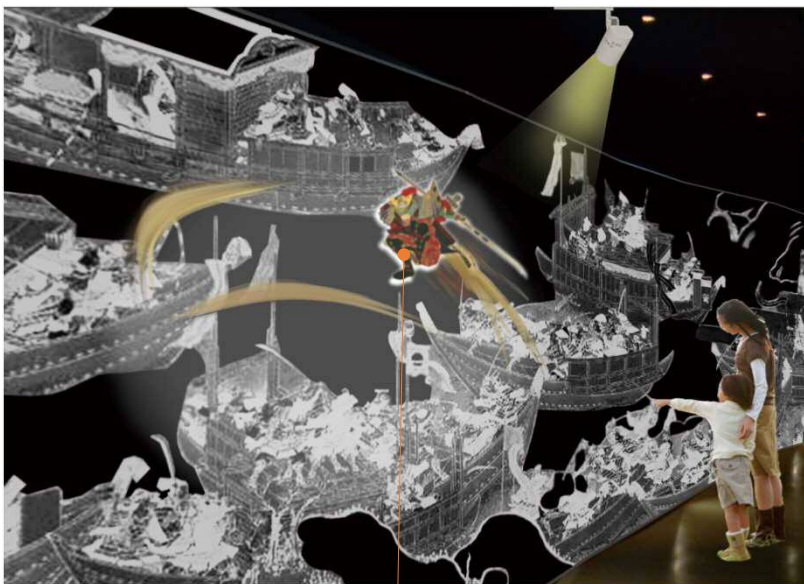
我が国と世界を結ぶ交通の要所として、歴史の大転換の舞台となった関門海峡。海峡が育んできた無数のストーリーを掘り起し、360度の多重スクリーンで海峡ドラマを体感できます。

①関門海峡歴史絵巻（スロープでの演出）

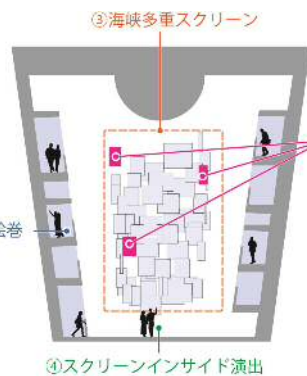
**現代から過去へ、歴史回廊**

関門海峡にまつわる歴史絵巻をスロープ壁面に展開。長いスロープを移動する間も、楽しく海峡の歴史ドラマを楽しめます。

<演出イメージ>



【リニューアルイメージ】



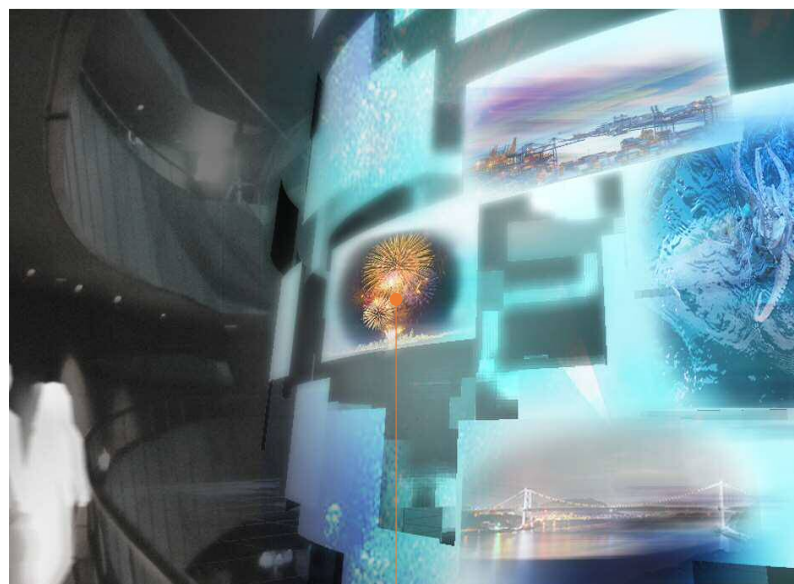
来館者の動きに合わせて歴史キャラクターが動き出す仕掛けや、歴史ドラマを描いたイラストが壁面から飛び出して動き出す仕掛けを施します。

②海峡マルチ演出（スクリーン単体での演出）

**海峡が生んだ数々のストーリーをみせる！**

スロープに設置したタブレット端末に触ると、アトリウム中央のスクリーンに投映された数々の海峡ドラマを楽しむことができます。

<演出イメージ>



スクリーンの所々で浮かび上がるストーリー。その詳細はスロープに設置されたタブレットで詳しく知ることができます。

<海峡アトリウム>

③海峡多重スクリーン（360度多重スクリーン全体での演出）

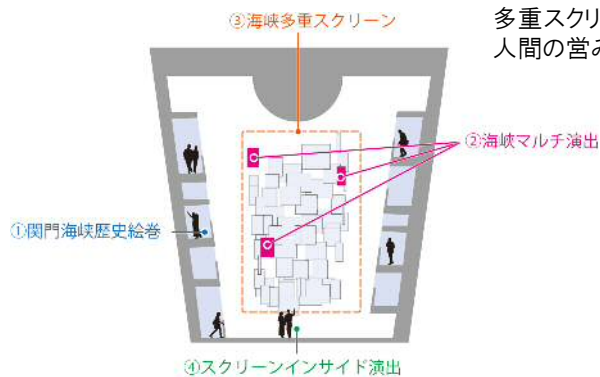
海峡ドラマをダイナミックにみせる！

アトリウムに数十枚のスクリーンを組み合わせた360度の巨大スクリーンを配置し、スクリーン全体を使って迫力ある海峡ドラマを体感できます。

<演出イメージ>



【リニューアルイメージ】



多重スクリーン全体を使って、歴史、自然、文化、人間の営みといった海峡ストーリーを展開。

④スクリーンインサイド演出

海峡のドラマを異次元の空間で体感する！

足元から、天頂まで広がるスクリーンに包まれた、これまで体験したことのない映像空間の中で、海峡ドラマを体感できます。

<演出イメージ>



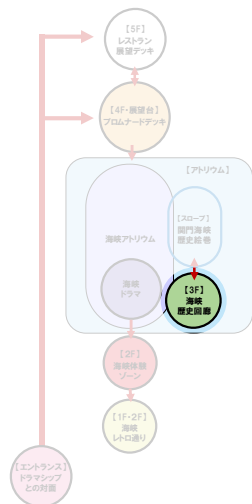
水中から船団を仰ぎ見たかと思えば、空中から戦いを俯瞰するといった通常では体験できない様々な位置からタイムスリップ映像を楽しめます。

<3階 海峡歴史回廊>

**展示環境を大幅リニューアル！人形アートを海中世界にきらめく幻想世界で輝かせます**

国内外の著名な人形作家が制作した作品を引き立たせるため、明るい海中世界にリニューアル。海峡ドラマの雰囲気をも高めるとともに、人形の表情をいきいきと魅力的に見せます。

<演出イメージ>



**演出用紗幕**

透過型の布を天井から懸垂し、海中を想起させる光を当てることで、空間全体を海中の雰囲気にします。光を面で受け止めて、空間を明るく感じさせる効果があります。



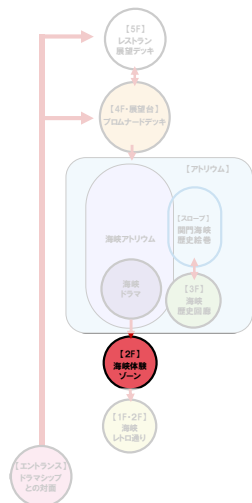
**床演出照明**

床に海中をイメージした揺らぎのある照明を当てます。海中を歩いている雰囲気をつくりながら、足元をほんのり明るくします。

<2階 海峡体験ゾーン>

**2階を海峡体験ゾーンにリニューアル！操船、海運、生物といった海峡の仕事、自然をリアルに体験します**

2階の旧レストスペースは体験空間にリニューアルします。海峡の操船の苦労、世界を行き交う海運システムといった海峡で働く人々の高度な技術を体験するとともに、関門海峡に生息する魚や生物の生態を、例えば釣りゲームなどを通して、楽しく学びます。



<体験アイテム検討案>

**体験アイテム: 操船シミュレーション**

最先端のCG技術を駆使して臨場感の高い仮想操船空間を実現。お気に入りの船を選び、潮流、天候、交通量など様々な条件の中で操船体験を行います。

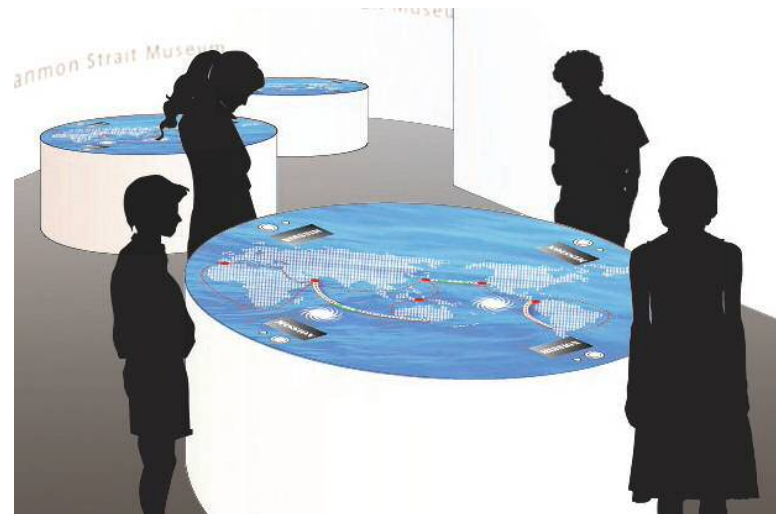


操船室をリアルに再現した個別ブースで操船体験。関門海峡を航海する難しさを体験します。

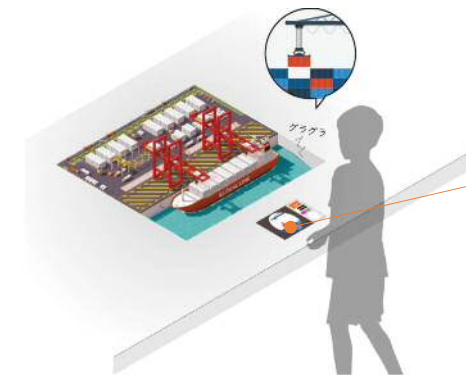


**体験アイテム: 海運オペレーションデスク**

世界の海運システムをゲームで体験。行き交う船や潮流を読みながら海峡を渡るリアルな設定で海運への理解を深めます。



**体験アイテム: コンテナクレーンゲーム**



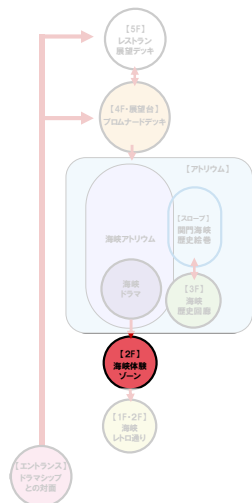
積荷のバランスをキープしよう！ゲーム感覚で、コンテナ船のヒミツを学びます。



<2階 海峡体験ゾーン>

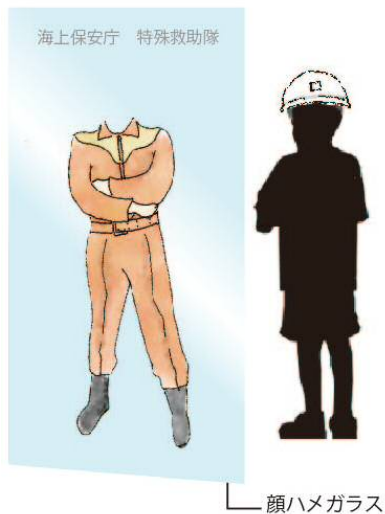
**体験アイテム：海峡の保安・生物**

手旗信号や釣りゲームなどを通じて、関門海峡の仕事や生態系を学びます。保安・生物をテーマとした充実の体験コーナーです。



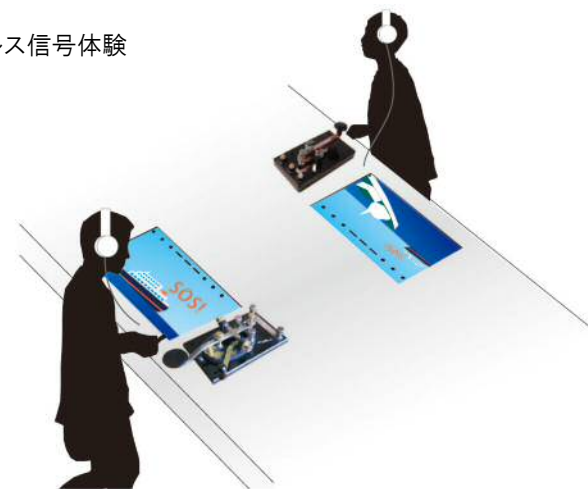
<体験アイテム検討案>

■ 顔ハメガラス



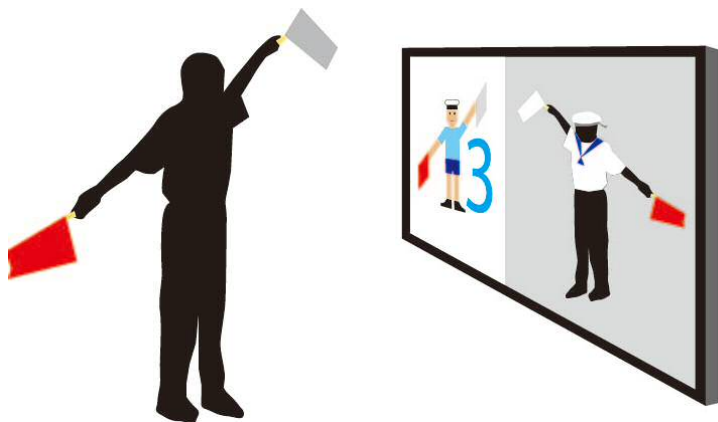
ガラスの後ろに立てば、即座に制服気分！写真を撮りたくなる展示です。

■ モールス信号体験



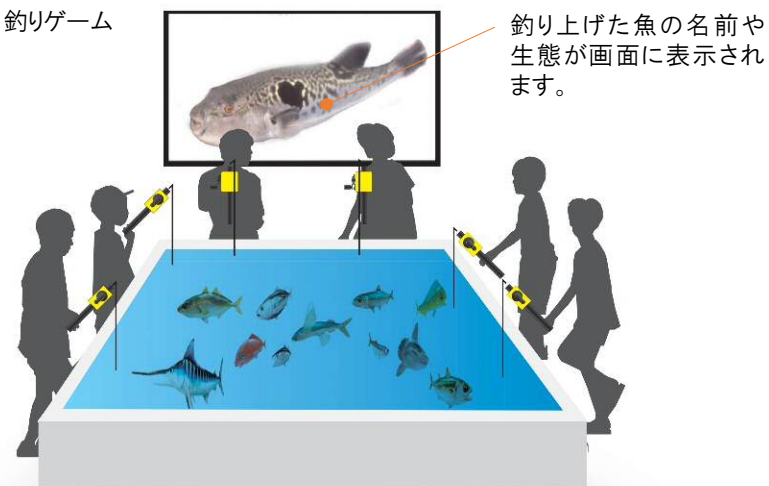
モールス信号でミッションにチャレンジ！正確な信号送信がミッションクリアのカギ。

■ 手旗信号体験



手旗信号の正確さと速さを競う！動作センサーで動きをとらえます。

■ 釣りゲーム



釣り上げた魚の名前や生態が画面に表示されます。

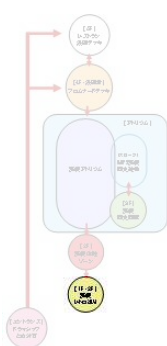
リアルな釣りゲームを通じて関門海峡の生態系を学ぶ！

<1階・2階 海峡レトロ通り>

**海峡レトロ通りをもっとパワーアップ！  
大正浪漫をリアルに体験する仕掛けをつくります**

【検討案】

- ・大正写真館…… 昔の写真館の雰囲気を再現、当時の衣装をまとうて優雅な気持ちでレトロ通りをお散歩。「ハイカラさん」スタイルで写真を撮ることができます。
- ・喫茶スペース…… モガ、モボで賑わう、どこか舶来の雰囲気のする喫茶スペース。大正浪漫あふれる門司港が体感できます。
- ・名画座…… レトロな映画が流れる名画座を再現。レトロ映画の味わいを伝えます。



<玄関前広場、建物外観>

**誘導サインで、人々をミュージアムに招きます**

遠くからでもはっきり見えるサイン、イカリをモチーフにしたサインを設置するなど、来訪者をわかりやすくミュージアムへ誘導します。

【検討案】



遠くからでも目立つ館名サイン

ミュージアムの道なりに海をイメージさせる誘導オブジェ

<5Fレストラン>

**レストランは、門司港の風を感じ、食を満喫できる空間に**

最上階は、展望レストラン。雄大な関門海峡の眺望と地元産の新鮮な食材を使った料理が満喫できます。関門海峡の夜景を楽しみながら、食事が楽しめる空間とします。

<海峡こども広場>

**船内探検をイメージさせるオブジェを加え、「こども広場」の魅力をさらにアップ**

「こども広場」に様々な船の設備をイメージした造作を追加し、あたかも船内を探検しているような空間を演出します。

【検討案】

上層



下層



＜周辺の魅力向上方策の基本的考え方＞

関門海峡ミュージアムの魅力向上とともに、その効果を門司港レトロ地区全体に魅力を波及させることができるよう、「賑わい空間をつくる」、「美しく楽しい景観で誘導する」、「まちを楽しく回遊する」という考え方のもと、門司港レトロ地区の関係者とともに方策について検討します。また、ミュージアムへ来訪者を誘導する方策を検討します。

周辺の魅力を向上するための方策 検討案	
①賑わいの空間をつくる	・夜間の魅力を向上させるライトアップ ・芝生広場、玄関前広場でのイベント開催
②美しく楽しい景観で誘導する	・バナーサインの設置 ・アートの活用 ・花壇整備 ・デザイン舗装等、快適な舗道の整備
③まちを楽しく回遊する	・夜間周遊バスの運行 ・無料Wi-Fi 機器の設置 ・自動走行バス実証実験による移送サービス ・レトロなレンタサイクルの貸出し



■ V 管理運営計画

＜運営の基本的考え方＞

関門海峡ミュージアムでは、以下を基本的な考えとして、管理運営を行います。

- ① 多くの人々が来館し、とりわけファミリー層が何度も訪れたくなる施設
- ② 市民の活動拠点となり、市民とともに進化、成長する施設
- ③ 多くの外国人観光客が訪れ、快適に楽しむことができる施設
- ④ 民間のノウハウを取り入れ、効率的・効果的な運営手法を取り入れた施設

＜広報方策・集客目標＞

広報・宣伝方策

広報・宣伝区分	内容
① ホームページ等を活用した広報展開	ホームページで、きめ細かく情報発信し、多言語表記などにより、インバウンド客にも利用しやすいようにします。
② SNSを活用した広報展開	来場者が写真や動画をSNSで発信したくなる館内の見所にフォトスポットを検討します。
③ 県・市の観光部局と連携した広報・宣伝	県や市の観光広報事業の中で、観光主要スポットとして位置づけ、活発な観光プロモーション活動を展開します。
④ 各種誘致活動の実施	県内外の学校への誘致活動を行います。旅行会社や交通事業者と連携した旅行商品の企画を働きかけます。
⑤ 門司港レトロ地区各施設との連携	門司港レトロ地区の各施設とは、セット割引入場券の販売など、これまで実施してきた相互利用促進施策を継続します。

集客目標

今回のリニューアルが大規模リニューアルであることに加え、類似施設の実績から、総入館者数で170%増の80万人を目指します。有料入場者数については、25万人を目指します。

＜企画展、イベント等の開催による魅力向上＞

関門海峡ミュージアムは、これまで通り、エリア全体の集客及び回遊性の向上に資する企画展やイベント等の事業実施に努めます。さらに、魅力的なテナント募集により、魅力向上をはかります。

＜市民の協力・連携＞

関門海峡ミュージアムは、市民とともに進化、成長し、地域活力の源泉となる施設を目指し、市民参画しやすい施設づくりを目指します。

＜外国人観光客の利用促進＞

現行の4ヶ国語によるパンフレット、スマートフォンによる「無料Wi-Fi音声ガイド」に加え、その他の言語表記についても検討します。

＜誰もが利用しやすいバリアフリーの向上＞

これまでのバリアフリー対応に加えて、サポートが必要な場合に気軽に相談できる体制を整え、さらに利用しやすい施設を目指します。

＜設備・機材の保守管理・更新の考え方＞

設備・機材については、設備の長寿命化と安全の両立をめざします。また、入館者が何度も訪れたくなるよう、定期的な展示ソフト等の更新を検討します。

＜民間の管理運営方式の導入＞

運営方式は現在採用されている「指定管理者制度」と民間事業者が施設改修、運営を一括して行うPFIの「RO方式」が考えられます。両手法の費用総額を比較したところ、指定管理者制度が有利となることから、本施設では引き続き「指定管理者制度」を採用します。